

山びこ通信

8月号
2004.7.13

第6回(フリー) 青春ライブ授業!



青春ライブ授業(春学期)の様子

日時 8月27日(金)
午後7時～8時30分(以降シンポジウム)
場所 幼稚園・つき組
講師 山下太郎
対象 中学・高校生・一般
(保護者の方で、小学生のお子さんがおられる場合は、その場
合に限り、小学生のお子さんもお連れして参加いただけます)

- 青春ライブ授業は秋学期から入場無料です
- お電話またはFAX(別紙)にて、お申し込みください

秋学期から新しくなります!

- (1)「山の学校」の会費納入で、一括と分割をご選択頂けるようにいたしました。
- (2)「青春ライブ授業!」をより多くの方にご参加頂けるよう入場無料といたしました。

秋学期のごあいさつ

——「山の学校」では、秋学期生を募集中です——

小学生のクラスは、「かず」、「しぜん」、「ことば」のどのクラスも、楽しく元気に勉強に取り組んでいます。それぞれのクラスの生き生きとした様子は、「山の学校」のウェブログ(下記のアドレス)をぜひご覧下さい。

中・高生のクラスについては、「青春ライブ授業!」でおなじみのスタッフ(小学生のクラスも担当)が勉強のこつを直伝しながら、学校の勉強に対するきめ細かいフォローを行っています。ただ、それにとどまらないのが「山の学校」の勉強。その+αについてお話しすると・・・。

中・高生のみなさんが、高校や大学に進学してからもなお、やる気を持って力を発揮していくには、受験勉強の答え合わせに終始しているだけではいけません。自分が本当に興味を持っていることは何か? よく考えれば、大学の勉強の先取りをすることだって可能だし、そうした勉強は何より楽しいはずです。

この「先取り勉強」とは、例えば読書であり、テーマを決めての小論文です(英語のクラスならこれを英語で行う)。小論文とは、自分の考えを文章で表現することですが、これを敬遠してはいけません。また、自分が書いた内容を人の前で発表し、意見交換することも大切です。

読書、小論文(レポート)、意見交換・・・どれも大学生にとって大切な勉強の基本のようですが、現実にはこれらの「先取り勉強」をないがしろにしている人が大半です。その結果、大学に入ってから勉強につまづいたり、目標を見失ったり、不登校に陥ったりする学生が少なくありません。希望の大学に入学することは大切ですが、入学してからますます力を発揮していくことはもっと大切なことです。

「山の学校」ではこのような考えに基づき、各クラスの定員を 5人 とし、「日本語の読み書き」のクラスを中心に大学の「先取り勉強」を支援していきます。目の前の勉強をどうこなしていくのか、それに加えて、大学の「先取り勉強」をどのように実現していくのか? こういったことについて、詳しくお尋ねになりたい方は、いつでもお気軽に「山の学校」までご連絡ください。クラスの見学、体験授業の受付も随時行っています。

電話 075-781-3200 / FAX 075-781-6073

ホームページ <http://www.kitashirakawa.jp/>

電子メール taro@kitashirakawa.jp

ウェブログ <http://www.kitashirakawa.jp/~taro/yama/>

『青春ライブ授業！』 秋学期からのご案内

5月から始まった「山の学校」の「青春ライブ授業！」ですが、当初予定した5回の授業のすべてを無事終えることができ、ほっとしています。参加していただいた生徒とご父兄のみなさんには心より感謝申し上げます。秋学期からは、より多くの皆さんにお越しいただけるよう入場無料とさせていただきますので、今後ともふるってご参加いただきますようご案内申し上げます。



さて、今回の企画は、私自身にとりましても、大変有意義な学びの機会となりました。「よく遊び、よく学べ」という言葉がありますが、やはり学校の勉強以外で「よく遊ぶ」ことが、大学に入学してなお好奇心を輝かせていくためには何より大切だということを痛感させられました。ただし、「山の学校」で言う「遊び」とは、ゲーム等の遊びではなく、大学で学ぶ内容の先取り勉強を楽しむ余裕を持つことを意味する、という点がユニークな視点であると思います（逆に言えば、この余裕を持てるように、日々の勉強を軽々とこなせるような実力をつけていただきたいと思います）。

秋学期以降も「青春ライブ授業！」は月1度のペースで継続していく予定ですので、どうぞご期待下さい。第1回目は「英語から古典語へ」というタイトルで私がお話をさせていただきます。中学時代に英語と出会ってからどのような勉強をして英語が好きになっていったのか、また、大学に入り、なぜ古典語（ラテン語・ギリシア語）の勉強に打ち込むようになったのか、様々なエピソードを交えながら振り返ってみたいと思っています。

(文責 山下太郎)

第2回 ワクワクしぜん教室



日時：8月24日（火）am.8:50～pm.2:00

行先：比叡平～大文字山

集合：幼稚園のふもと（西側の石段下に8:50まで（時間厳守））

解散：銀閣寺交差点（佐藤耳鼻科医院前）

主催：山の学校「しぜん」のクラス

対象：山の学校・生徒とご家族

（「しぜん」以外のクラスからでも、休会員の方でも参加いただけます）

- 折込の申込用紙にて、7月31日までにお申し込みください
- 集合時刻には時間厳守をお願いします（京阪バスの都合）

大文字はみんながよく知っている山ですが、山の中はいくつもの分岐点があり、山科方面、比叡平、三井寺方面、蹴上方面など、多くの身近な山歩きコースがあります。今回はみんなで比叡平から入り、三角点でお弁当を食べ、山頂からの大パノラマが眺められることを楽しみにしています。みんなの参加をまっています。

コース 9:04 別当町バス停（比叡平終点行乗車）

- ＆時間
- 9:40 池の谷地蔵尊・薬草園（600種の薬草植物を見学しながらお話を伺います）
 - 11:10 大文字山・三角点(466m)（昼食 / 登頂記念のプレートを飾りましょう）
 - 13:00 火床～千人塚～銀閣寺（自然を観察しながら、下山していきます）
 - 13:50 銀閣寺門前
 - 14:00 佐藤耳鼻科医院前

持物 バス代片道（子ども140円/おとな280円）・お弁当・水筒・タオル・リュック・

天候が悪い場合は雨具・（必要に応じて、防虫スプレー・常備薬）

服装 履きなれた靴（スニーカー）、動きやすい服、帽子

当日 小雨決行・レインコート・傘をお持ちください ※雨天は翌日順延

台風などの場合、実施の有無はお家に8:00前後に連絡させていただきます

6月22日(火) テーマ “水生昆虫(すいせいこんちゅう)”

梅雨の真っ直中と言うのに、爽やかな晴天に恵まれました。先週に引き続き、“ひみつの森”の水たまり(貯水池)へ水生昆虫を求めて出発する前に……

- 水生昆虫って？ 何だろう。 (※一生のある期間、水の中にすむ昆虫のこと)
- 水生昆虫のすむ場所はどこ。
 - ①流れの少ないところ () ※田んぼ, 池, 湖, 水たまり・・・etc.
 - ・すんでいる昆虫は？ () ※トンボ, アメンボ, ミズカマキリ, タイコウチ, ミズスマシ, ゲンゴロウ etc.
 - ②流れのあるところ () ※川
 - ・すんでいる昆虫は？ () ※ホタル, カワゲラ, トビゲラ, ヘビトンボ, カゲロウ etc.

◇ 図鑑で下調べをしたあと、手には水陸両用の虫取り網を持って、いざ出発！



“ひみつの森”に着くなり、網を水の中へすうーっとひとすくいすると、中にはオタマジャクシ、トンボの幼生、アメンボ、マツモムシ等いろいろな生き物が入ってきました。見たこともない昆虫もいるようです。

子どもたちは、泳ぎ回る生き物や水中で葉脈だけになった葉など、幾度も網を水の中につけては、目を皿のようにして中に入ってくる生き物を探します。



「このオタマジャクシ可愛いー！」と、手の平にのせて観察するMちゃん。オタマジャクシはかなり沢山いるようです。「もうすぐ後ろ足がでてきそうね。」

ふと横を見ると、何かと格闘中のGちゃん。水たまりの上の木に、何やら綿菓子のような白い塊。



「白くもったりと木に産みつけられたのは、何だろうね？」
「そや、モリアオガエルの卵や！」
「その中でオタマジャクシにかえって、下にある水にポトンと落ちて泳ぐわけか。うまくできてる！」

どうしても手にとって確かめたいGちゃんは、網を持った手をグッと伸ばし、卵の半分をゲット。



「中に卵のつぶが見えてる・・・」
「じゃ、大事に飼育ケースに水を張って観察してみようか。」

持ってきた手提げ水槽にいくらかの水生昆虫を入れ、楽しかった“ひみつの森”を後にしました。そして、皆はスタート地点の幼稚園の園庭に戻って来ました。

*** クロアゲハとお別れ***

今日、Sちゃんは、“クロアゲハ(蝶) 夏型クロアゲハ 60mm~70mmくらい”を、ケースに入れてお家から小学校を経て、しぜんクラスまで運んできていました。結構大きなケースです。なぜかと言うと、何処かで羽がちぎれて傷ついていたクロアゲハを見つけ、お家で花の蜜を吸わせたりハチミツを食べさせながら育てていたということでした。

いよいよ、そのクロアゲハを、お山に続く幼稚園のお庭で自然に返してあげようということになりました。皆でケースのふたを開けて、Sちゃんは声をかけます。



『さあ、飛べ！がんばれ！』

クロアゲハのとまった蓋を頭上にあげると、いつしか、フワッ・・・と、空高くクロアゲハは舞い上がり、園舎の屋根を見おろす大きなクスの木の上へと飛び立って行ったのです。

「ヤッター！！」 「飛べたねー」 「すごい。力が残ってたんだねー！」

思わず、皆が拍手をしたその時でした。飛んでいったはずの“クロアゲハ”が、あちらから、舞い戻ってきたのです。あっ、“トンボ”と一緒に！皆、空中を見つめて、こちらに目がけて飛んでくるクロアゲハとトンボの様子をただ見守っていました。クロアゲハとトンボは、少しの間、皆の頭上を舞ったあと、

『今度こそ、行ってくるよー！』

と言っているように、トンボは南へ、クロアゲハは東の大文字方向（花の咲いた高い木の方向）へ羽ばたいて行きました。

それは、一瞬の出来事でした。不思議な、でも確かなことで、私達は皆で何かに吸い込まれるような、言葉の要らない時間を共有した思いがしました。

その後、教室に戻り、長方形のバットに移した水中生物を手にとり観察しました。



この日は、コスズメ(蛾)のサナギのお客さんがありました。

手にとって、指でつまむと、おしりを右へ左へ「ピクッ、ピクッ」と力強く動かします。



あと、1週間くらいで羽化するでしょう。

(文章 / 山下育子)

* 現在、教室に仲間入りした生き物*

アメンボ 生きた小さな虫が水面に落ちる波動で、近づき手で獲物を押さえ、長いストローのような管で刺して体液を吸う肉食性。飼うにはエサの捕獲が大変。

オタマジャクシ 種類は不明。カエルになる前は、金魚のエサ(テトラフィン)でよいとの事。カエルになるとエサが生き物に変わるので、その前に自然にもどしたいです。

オオアオイトトンボ 幼生の時は、ボウフラ、アカムシを食べていました。

アカアシクワガタ 園内を歩いていて、メス。土にもぐり、よく昆虫ゼリーに顔をつっこんでいる。

キボシカミキリ お山の石段を歩いていた。つかむと、キュッキュッと音を出すので可愛い。そう言えばイチジクの葉の下に落ちていた。黒い体に黄色の斑点。

モモズメ(蛾) サナギ(そろそろ羽化する時期)

コスズメ(蛾) サナギ(同上)

カミキリムシのサナギ 朽ちた木の中で生育。

スズムシ 昨年のスズムシが今年6月に入り孵化した小さな子どもスズムシ。小さくまだ鳴きません。欲しい方、あげます！

カブトムシ よう室をつくりサナギに。何匹入っているのだろう。

「ことば」のコラム

白鳥は、哀しからずや

火曜日ことば担当 京都大学文学部 南雲泰輔

白鳥は哀しからずや空の青
海をあをにも染まずただよふ

頭上に掛かる蒼穹と、眼前に広がる大海原と——本当はどちらも真実に青くはないけれど、弧を斬るように大気の中を滑り落ちてゆく、その白さが余りに眩し過ぎて——ここは風のごとふわりと軽ろく、雲は水際の路を遙かに通う。吾が心は虚無の上に歩む。



「いつか旅をしてみたい、旅行ではなくて」

そんなふうに思ったのは中学の時だった。やがて旅から旅へ、それは行けど果て無き、しかし迷うこと無きひとすじの途上。あらゆるものが、あらゆるものと繋がり、そしてまた私に戻ってくる。続いているのは迂遠な道、道標は朽ち果て、私は静かに眼を瞑る。

ずっと昔、誰かが道しるべを立てた。ずっと昔、誰かがこの道を歩いていった。

道の上に戯れる季節の巡り。春の芽吹きも夏の日陰も秋の陽光も冬の静寂も、大切なものを埋めていったのは「成長」という時間の不可逆性だったと思う。

歩み続ける背に載る鞆は日に焼け色褪せ、何時の間にか背表紙の取れたぼろぼろの辞書と、木の葉をたくさん挟んだ一冊の本が入っている。色づく木の葉、それは私の言の葉。小さな本の、ところどころから舞い落ちる季節が、不器用な書き込みと一緒に、いつでもあの日の記憶を呼び起こしてくれる。そのたび、大樹の枝を揺らしていった、優らかな向かい風が私の中を通り抜ける。そんなとき、ふっと手を見つめてみるといい。

無色のヴェールを透かして降りてくるひかりを拾い集めて夢中だった手のひらも、過ぎ去った時間をつかむことが出来るほどに大きくなった。

こどもでもなく、おとなでもない——ただ一羽の白鳥だったというのか、十代という時間は。失われてしまったものは感傷に転じやすい、けれど空を引き裂いてゆく羽音は、ノスタルジックというより、ポテンシャルなものなのではないだろうか。

——ところでN君、「白鳥」で何て読むのだったっけネ？

——…。「はくちょう」でしたっけ？あれ？？？

★ 若山牧水 (1885-1928)：宮崎県生まれ。歌人。歌集に『海の聲』『別離』等。

★ 山の学校ことば小学校高学年クラスでは『新編 みなかみ紀行』（池内紀編、岩波文庫）を精読しています。辞書を引くということが自然に行えるようにすることが当面の目標です。

8月「山の学校」カレンダー

秋学期開始!

火	水	木	金
<p>24 ワクワクしぜん教室 (しぜんクラス主催) am8:50~pm2:00</p> <p>休 ことば (高学年) 休 かず (中級) ○ 中1 英語の基本 ○ 英語の読み書き</p> <p>※秋学期開始→</p>	<p>25 日本語の読み書き (体験授業・フリー) 中学生 pm7:00~8:00 高校生 pm8:10~9:10</p> <p>○ ことば (低学年) ○ ことば (中学年) ○ ラテン語</p>	<p>26</p> <p>○ かず (初級) ○ かず (上級) ○ 中2 英語 ○ 中2 数学 ○ 数と自然</p>	<p>27 青春ライブ授業! (6) pm7:00~8:30 (以降シンポジウム)</p>
←24日のことば(高学年)とかず(中級)のクラスは→ 25~27日で振替日を調整させていただきます。			
<p>31</p> <p>休 しぜん (低・高学年) ○ ことば (高学年) ○ かず (中級) ○ 中1 英語の基本 ○ 英語の読み書き</p>	<p>1 ○</p>	<p>2 ○</p>	<p>3 ○</p> <p>(金曜日ラテン語 クラスはこの日 が初回です)</p>

○…「山の学校」の日 休…休講

秋学期の会費納入について

- (1) 一括、または分割の1回目を、8月中の授業の日(24日から31日)にお納め下さい。
- (2) 分割納入の2回~4回目の納入期限は次の通りです。
2回目/9月30日 3回目/10月31日 4回目/11月30日
- (3) 銀行振込の方は、夏休み中(~8月31日)にお納め下さい。

『声』

no.6 宇梶卓先生

——「ことば」(中学年)クラス

今回は、宮沢賢治の『どんぐりと山猫』を読みました。主人公の一郎がある日、山猫に呼ばれて山奥に導かれ、そこで不思議な体験をするというお話です。

生徒と山のイメージについて話し合ってみたかったので、この本を選びました。

この絵本を読みながら、私は「山の奥って、どんな風になっているんだろう？」とたずねてみました。

Sくんは、「山の奥は地獄だよ」と答えました。

「〈立ち入り禁止〉っていう看板の100メートル先あたりからはあの世だよ」という意見に対し、私は「じゃあ、授業が終わったら、その看板のところまで連れていってくれる?」とお願いしました。

授業後、僕はその看板のところまで連れていってもらいました。園舎の間を通り抜けていくと、確かに

「立入禁止」

という看板がありました。その先はちょっとした崖になっていたのですが、確かにどこか別の世界につながっているような気がしました。

また、そこではたくさんの猫が私たちを出迎えてくれました。

まさに私たち自身が「どんぐりと山猫」の世界を体験していたような気がします。(ちょっとこじつけっぽいですが)

(6月30日の記事抜粋)

『声』

no.7 福西亮馬

——「やまびこクラブ」より



(K君がかたつむりを守る家を作っているところ)

先週の「やまびこクラブ」では、チラシとダンボールという素材で遊びました。雨の中、家の中で、「ターザンごっこ」に近いことをしていたように感じます。

私自身過去を思い出しました。子どもの本分に徹するよう、こういう遊びが次でもできたらと思います。

(6月30日の記事)